

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年06月09日

計画の名称	市民の憩いの場として愛される安全で安心な公園づくり（防災・安全）													
計画の期間	令和０２年度　～　令和０６年度（５年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	美濃加茂市													
計画の目標	災害につよいまちづくりをめざし、美濃加茂市地域防災計画において避難場所等に位置付けられた都市公園の整備を行う。 緊急避難場所としての機能だけでなく、緊急輸送道路に近接していることから、災害時における救援物資の配分活動拠点として、 また救助活動拠点として防災機能の強化を図るとともに、陸上競技場を中心とし、木曽川の豊かな自然空間を活かした憩いというおいのある広場（空間）を創出する。													
全体事業費（百万円）	合計（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ）		1,215	A	1,215	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （ A ＋ B ＋ C ＋ D ）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R1末）		（R6末）
1	緊急時の当地域や周辺市町の防災拠点となり、救援救護や復旧のために最大限効果を発揮する施設の建設。 消防団を中心とした災害時に備えた防災関連の訓練を実施。			
		11回／年	回／年	39回／年
2	公園年間利用者数を、12,000人（R1）から65,000人（R6）に増加させ、スポーツの普及、推進のための最前線として活用できる施設の建設。 平常時の公園年間利用者数を測定。			
		12000人／年	人／年	65000人／年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	美濃加茂市	直接	美濃加茂市	-	-	都市公園事業（牧野ふれあい広場）	公園整備 8.1ha、園路・施設の新設	美濃加茂市	■	■	■	■	■	935	-	-	
	A12-002	公園	一般	美濃加茂市	直接	美濃加茂市	-	-	都市公園事業（牧野ふれあい広場）（5 かな防公）	災害時に地域防災拠点となる防災公園の整備、園路・施設の新設 A=8.1ha	美濃加茂市	■	■	■	■	■	280	1.3	-	
											小計							1,215		
											合計							1,215		

事後評価	
○ 事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
市内部評価	令和 8 年 6 月
	公表の方法
	市ホームページで公表予定
○ 事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	防災拠点としての機能を持った公園整備や消防団を中心に訓練を実施し、救助活動拠点として防災機能の強化、平時は市民へのスポーツ普及、推進に寄与する賑わいのある公園となることが期待されます。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○ 特記事項（今後の方針等）	
第6次総合計画「健康な心、健康な体」を育む場として、身近にスポーツができる場として感じてもらい、健康づくりの場として使用される施設を目指す。また、有事の際には美濃加茂市の救助活動拠点として活用する。	

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	39回 / 年		
	最 終 目標値	39回 / 年	市消防団中心の訓練の他、地区消防団でも訓練の場として活用されたため。
	最 終 実績値	73回 / 年	
2	65000人 / 年		
	最 終 目標値	65000人 / 年	陸上競技場内の芝生の定着が悪く令和7年度を通して養生をおこなったため、改修後の利用者数の目標を下回ったが、令和8年度以降、陸上競技場内の芝生エリアのサッカーやラグビー等での大会使用開始後は、目標値を上回ることが見込まれる。
	最 終 実績値	58700人 / 年	